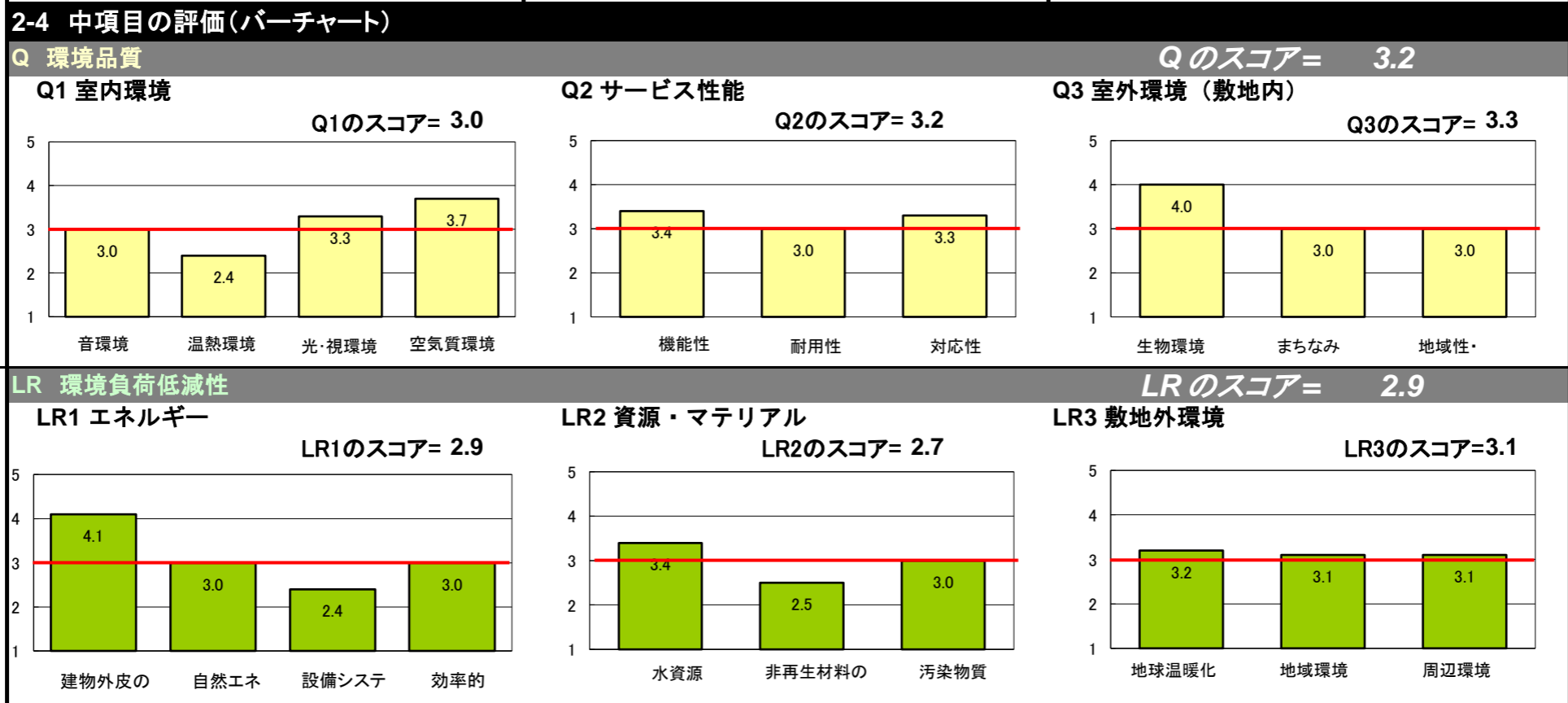
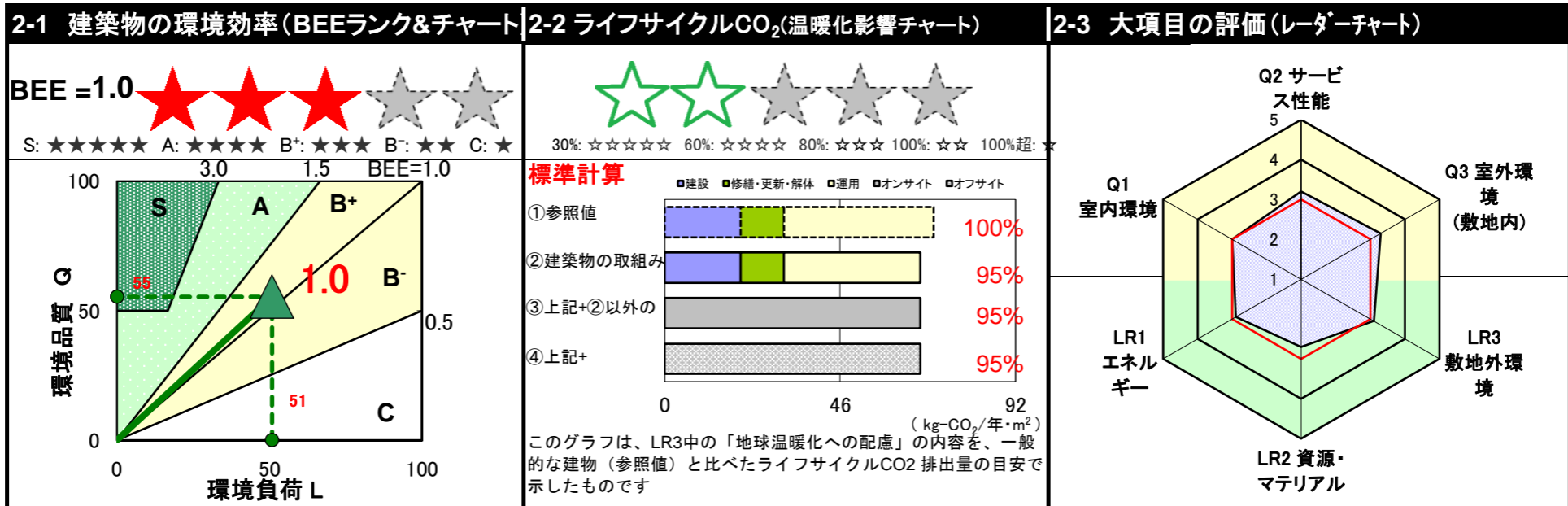


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東浦総合リサイクルプラント整備事業 廃棄物焼却発電施設	階数	地下1階地上5階
建設地	愛知県知多郡東浦町大字林岡字アト新切3-10.27-1.32-1.33-1.34-1.35-1.36-1.37-1.38-1.39-1.41-1.42-1	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年8月 予定	評価の実施日	2020年5月12日
敷地面積	11,311 m ²	作成者	中村俊之03792-20
建築面積	1,330 m ²	確認日	2020年5月13日
延床面積	3,129 m ²	確認者	杉山光宏01211-22



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.2</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>28.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.8</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体									
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体									
Q 建築物の環境品質															3.2								
Q1 室内環境															3.0								
1 音環境															3.0								
1.1 室内騒音レベル															3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1.2 遮音															0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能															-	3.0	0.60	-	-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能															-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															-	3.0	-	-	-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															-	3.0	-	-	-	-	3.0	-	
1.3 吸音															-	3.0	0.20	-	-	-	3.0	-	
2 温熱環境															0.3	2.4	0.35	-	-	-	-	-	2.4
2.1 室温制御															0.5	2.6	0.50	-	-	-	-	-	
1 室温															3.0	3.0	0.38	-	-	-	3.0	-	
2 外皮性能															3.0	3.0	0.25	-	-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性															3.0	2.0	0.38	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御															3.0	1.0	0.20	-	-	-	3.0	-	
2.3 空調方式															3.0	3.0	0.30	-	-	-	3.0	-	
3 光・視環境															0.2	3.3	0.25	-	-	-	-	-	3.3
3.1 昼光利用															0.3	4.2	0.30	-	-	-	-	-	
1 昼光率															3.0	5.0	0.60	-	-	-	3.0	-	
2 方位別開口															-	-	-	-	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備															3.0	3.0	0.40	-	-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策															0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
1 昼光制御															5.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0	-	
3.3 照度															3.0	3.0	0.15	-	-	-	3.0	-	
3.4 照明制御															3.0	3.0	0.25	-	-	-	3.0	-	
4 空気質環境															0.2	3.7	0.25	-	-	-	-	-	3.7
4.1 発生源対策															0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質															3.0	4.0	1.00	-	-	-	3.0	-	
4.2 換気															0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
1 換気量															3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.0	-	
2 自然換気性能															3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮															3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.0	-	
4.3 運用管理															0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視															3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御															3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能															-	-	0.30	-	-	-	-	-	3.2
1 機能性															0.4	3.4	0.40	-	-	-	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ															0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性															3.0	3.0	0.50	-	-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応															3.0	3.0	0.50	-	-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画															3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性															0.3	3.3	0.30	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)															3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース															3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-	
3 内装計画															3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理															0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計															3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保															-	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性															0.3	3.0	0.31	-	-	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振															0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数															0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数															-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔															-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性															0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
3 電気設備															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備															3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3	
3.1 空間のゆとり		②	4m以上	0.3	4.2	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	3.0	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.37	-	-	-	3.3	
1	生物環境の保全と創出	独自③	既存樹木を極力残す	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0	
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										2.9	
LR1 エネルギー						0.40				2.9	
1	建物外皮の熱負荷抑制		事務所部分はウレタン吹付及びガラスウールにより断熱性能の向上を図	3.0	4.1	0.23	-	-	-	4.1	
2	自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化			3.0	2.4	0.44	-	-	-	2.4	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30				2.7	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1	節水		節水型便器、節水ゴマを採用している	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5	
2.1	材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.21	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	3.0	0.25	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1	消火剤			-	-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						0.30				3.1	
1	地球温暖化への配慮	①	事務所部分はウレタン吹付及びガラスウールにより断熱性能の向上を図	-	3.2	0.33	-	-	-	3.2	
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1	
2.1	大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3	交通負荷抑制	独自	周辺交通の障害とならない敷地内車両動線計画	-	5.0	0.25	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-		
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-		
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		適切な照度レベルを設定している	-	4.0	0.70	-	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

東浦総合リサイクルプラント整備事業 廃棄物焼却発電施設

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.11	外構緑化:28.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称

東浦総合リサイクルプラント整備事業 廃棄物焼却発電施設

計画上の配慮事項	
総合	<p>建築基準法51条許可の取得において、下記を順守した計画としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内緑化率20%以上確保 ・周辺の車両通行に支障をきたさないこと ・敷地内への十分な駐車場の確保 ・敷地周囲に2.5mの緩衝帯を確保
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・使用建材はF☆☆☆☆とする。 ・会議室天井はグラスウール敷とする。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所部分の天井高を2.5m以上確保する。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化率を20%以上確保する。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所部分の外壁をALCとし、ウレタン吹付により断熱性能を向上させる。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・節水型便器、節水ゴムを採用している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・事業用大型車及び普通車駐車場、来客用駐車場を確保する。 ・周辺交通へ極力影響のないゴミ搬入等のトラック動線とする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし